

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：25405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00344

研究課題名（和文）最盛期読本の総合的研究

研究課題名（英文）A study of Yomihon in the peak period

研究代表者

藤沢 毅（FUJISAWA, Takeshi）

尾道市立大学・その他部局等・教授

研究者番号：20289268

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：江戸時代の文学ジャンルの一つである「読本（よみほん）」の、出版数が最多である文化5年（1808）を基盤に、文化5年から同8年の間に出版された読本を内容（梗概、素材、構成、記述を含む）、書式、出版の様相の面から網羅的に調査し、各作品計82点の解題を作成。また、その結果に基づき、この期の読本の特徴について、各研究者の視点から論をまとめた。読本は文化5年に出版数の頂点を迎えたが、これは人気作者の登場とともに、それだけの数の読本を受け入れる読者がいたこと、またそれを踏まえた書肆が出版を進めたことが考えられる。書物の形態や装飾に力を注ぐ造本意識も発達した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでは著名な作者や作品のみが注目され、研究対象となっていたが、文化5年（1808）から同8年に刊行された読本を網羅的に調査・考察することで、当時の読本というもののありかたを複眼的に把握することとなった。各作品に対して作成された解題は、この時期の読本全体の特徴を掴むに留まらず、各作品の研究の深化につながるであろう。また、著名な作者や作品の研究に偏った志向を是正することになる。この時期に出版された読本の諸相を考察したことで、同時代他ジャンルの文学作品や芸術、あるいはこの前後の時代の読本を考える上でも有効なものとなっている。

研究成果の概要（英文）：Based on the 5th year of Bunka (1808), which is one of the literary genres of the Edo period, which has the largest number of publications, we comprehensively investigated the books published between the 5th and 8th years of Bunka in terms of content (including outline, material, composition, and description), format, and publication mode, and created a total of 82 titles for each work. Based on the results, we summarized the characteristics of the reading books of this period from the perspectives of each researcher. The number of books published reached its peak in the fifth year of culture, and this is thought to be due to the advent of popular authors, the fact that there were readers who accepted such a large number of books, and the publication of books based on this. There was also a developed sense of bookmaking, focusing on the form and decoration of books.

研究分野：読本（よみほん）

キーワード：読本 実録 書誌 書肆 出版

1. 研究開始当初の背景

- (1) 2004～2009年度、国文学研究資料館のプロジェクト研究「近世後期小説の様式的把握のための基礎研究」が行われる。これを受け、特に読本の共同研究の継続を希望する有志が集い、西日本近世小説研究会が発足。2012～2015年度には科学研究費補助金・基盤研究(C)「文政期読本の基礎的研究」として文政期(1818～1830)刊行の読本について、また2016～2019年度には科学研究費補助金・基盤研究(C)「一九世紀初頭・長編小説生成期における構成・素材・記述に関する総合的研究」として享和・文化初期(1801～1807)刊行の読本について研究を進めた。本研究はこれを受け継ぐものとして、2020～2023年度において科学研究費補助金(C)「最盛期読本の総合的研究」を行ったものである。
- (2) 最盛期読本とは読本出版件数をもっとも多かった文化5年(1808)を中心に、翌文化6年の刊行読本をも見据えて研究を開始した。

2. 研究の目的

- (1) 江戸時代に出版された「読本(よみほん)」というジャンルの文学的かつ総合的研究を目指したもの。特にこのたびは、文化5年という読本出版数最多の年に出版された読本と、その翌年に出版された読本について考察していく。
- (2) 「研究開始当初の背景」(1)に記した「文政期読本の基礎的研究」に始まる一連の研究の特徴は、網羅的に作品にあたるということである。著名な作品を見直しながら、これまで知られていなかった作品に対しても考察を行うことで、これまでの著名な作者・作品に偏重してきた研究の志向を是正することを目指している。これは、今後の読本の研究の深化を促すことになるであろう。

3. 研究の方法

- (1) 上記「研究の目的」(2)にも述べたように、本研究の特徴に「網羅的に作品にあたる」ということがある。このためには、どの作品が今回の研究対象となるかを確定しなければならない。国文学研究資料館の国書データベースをもとに、仮の読本年表を作成。その上で研究メンバーが、読本の諸作品の諸本にあたり、刊年を確定し、その結果を反映させて読本年表を修正していった。
- (2) 国文学研究資料館や国立国会図書館、早稲田大学図書館を始め、各所蔵機関が公開している画像データベースも増えてはいるが、版木の入木による修訂状況を確認するためには複数の原本にあたり、比較しながら考察を行わなければならない。研究メンバーは担当作品を決め、その作品の諸本にあたり、考察検討を行った。
- (3) 上記考察の結果を各読本の「解題」という形で、年2回の研究会で発表。この解題は、読本の内容(素材、構成、記述を含む)、書式、刊行や後印後修の様相などを考察してのものとした。研究会での質疑応答を踏まえ、より考察を深めた。最終的には、研究メンバー各自の興味・関心・視点を踏まえ、この時期に出版された読本の特徴についてまとめ、総説を作成した。

4. 研究成果

- (1) 2020年度から始まったこの研究であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、2022年度まで各研究機関に赴いての諸本探査の機会に大きな制限を受けた。まずはネット上で公開されている資料や研究メンバーが所持している資料を使用し、各作品の刊年の確定に向けての調査、また解題作成にあたった。一方、研究を進めていくにあたって、調査の結果、読本とされていた作品が合巻など別ジャンルのものであったことがわかったものや、あるいは国書データベースに載る刊年が違っていった場合(それ以前の刊行物の改題本であった場合を含む)などが見つかると、当初作成の仮の読本年表は修正されていった。その上で、当初目標としていた文化5年刊、同6年刊の読本にとどまらず、文化7年刊、同8年刊の読本の調査と対象範囲を拡げていくことができた。2022年度前半までは、研究会はオンラインを使用していたものとなり、研究メンバーがそれぞれ所蔵の資料を持ち寄って、つきあわせながらの考察を行うことはできなかった。2022年度後半から対面での研究会が実施され、また2023年度には研究機関に赴いての調査がある程度可能になり、これまで確認できなかった資料を閲覧・調査することができた。上記「研究の方法」(3)に記した各作品解題と、研究メンバー各自による総説、また修正していった読本年表を報告書『最盛期読本の総合的研究』(2024年2月発行。非売品)にまとめた。
- (2) 上記『最盛期読本の総合的研究』は、第一部「最盛期(文化五～八年刊)読本の総説」、第二部「最盛期(文化五～八年刊)読本解題」、「最盛期(文化五～八年刊)読本年表」と「最盛期(文化五～八年刊)読本書名索引」から構成される。まず、第一部「最盛期(文化五～八年刊)読本の総説」では、研究代表者である藤沢が「一 最盛期(文化五～八年刊)読本概観」と「一 『茶店墨絵艸紙』の初印本」を執筆。前者では、この時期の読本の各年の

発行数や傾向、特徴、また文化五年九月に出された「合巻作風心得之事」(幕府より書肆を通じて達しのあった、合巻における作風の制限。凶悪過ぎる人物や事件や奇病、怪奇現象などを制限している)が、この時期に出版された読本にも影響があったどうかを考察。後者では、この研究期間に発見された『茶店墨絵艸紙』の初印本の書誌データについて報告した。この時期の最終的な読本刊行件数は以下の通り。

文化5年 59点
 文化6年 31点
 文化7年 23点
 文化8年 15点

享和元年(1801)から文化8年(1811)までの読本刊行件数をグラフで示す。



- (3) 同じく『最盛期読本の総合的研究』第一部では、研究分担者木越俊介による「二 文化五～八年刊の中本型読本 刊行点数の減少とその要因」として、江戸における検閲制度の変更によって、中本型読本は「書物」の方に振れ、半紙本への擬態の例も見受けられたが、結果として半紙本読本の急激な史的展開と合巻というジャンルとの間で取り残されることとなり、刊行点数が減少していくことになったとの推論を展開。菊池庸介は「三 「実録種」絵本ものの動向」として、速水春暁斎作の絵本もの読本は文化四年を頂点として内容的にも登場人物の関係づけが緊密になるなどの先鋭化が進んだものの、文化五年以降は作品数が減少し、内容も一つの種本に基づくものに戻るという傾向を持つことを指摘する。田中則雄は「四 読本最盛期における合巻と読本との関係」として、同じ作者が同じ趣向を用い読本と合巻との両方を書いた例を比較することによって、最盛期の読本がいかに工夫を凝らし、一つ一つの場面にしても全体の枠組みを意識して書いていたことを述べる。大屋多詠子は「五 最盛期読本と演劇」として、この時期には馬琴を始めとする作者が演劇種を使用した読本を執筆していること、特に近松門左衛門作の浄瑠璃作品の利用が多いこと、演劇種が半紙本読本の素材として切り離せないものになっていくことを指摘する。三宅宏幸は「六 随筆、考証と読本との関係」として、当時の作者たちの考証が、読本の内容に深くは関わらなくとも作品の一部として物語を彩る要素となっていることを述べる。天野聡一は「七 狂歌師の読本」として、芍薬亭長根、石川雅望、鹿都部真顔という狂歌師たちによって著された読本について精査し、狂歌師たちは地方にも門人を多く抱える指導者としての面から、読本の舞台に自らとゆかりの深い地域を舞台に選んでいるとの結論を導いた。藤川玲満は「八 上方作者手塚兎月とその周辺」として、手塚兎月は読本執筆にあたって、複数作品で同じ場面設定を描き分けていること、また作中に用いる素材については地域性や当代性に目配りを行っていること、同時代の他作者の作品からも影響を受けていることを述べる。中尾和昇は「九十返舎一九と感和亭鬼武」として、十返舎一九作の読本『連理隻袖』を典拠の『融通大念仏』と比較し、縁起譚としての叙述がなくなり、お家騒動を前面に出した内容になっていること、それにともない登場人物の性質や役割にも大きな変化があることを指摘。また、感和亭鬼武は一九との交流が深く、その中で地方への視座を獲得したのではないかと推論する。菱岡憲司は「一〇 『椿説弓張月』の内的独白」として、曲亭馬琴作の読本『椿説弓張月』における自由間接話法的な記述について検討し、登場人物の心理描写の冴えを評価する。また、その記述に注目することによって、これまでの翻刻の誤読をも指摘する。

- (4) 『最盛期読本の総合的研究』第二部では、文化5年から8年にかけて刊行された読本の解題を計82点記載した。これは実際にこの期に刊行された読本計128点から、すでに『読本事典 江戸の伝記小説』（国文学研究資料館・八戸市立図書館共編。2008年、笠間書院）、『文政期読本の基礎的研究』（2016年、西日本近世小説研究会）、『享和・文化初期読本の基礎的研究』（2020年、西日本近世小説研究会）で紹介されたものを除いたものである。各解題は、冒頭に対象としたテキストの書誌を記し、解題本文では作品梗概やその特徴を挙げている。
- (5) 『最盛期読本の総合的研究』の末尾に、「最盛期（文化五～八年刊）読本年表を掲載し、刊年ごとに、読本の書名、作者名、絵師名、書形・巻数、備考を挙げた。また、各作品の解題に辿り着きやすくするために、「最盛期（文化五～八年刊）読本書名索引」も掲載した。
- (6) 『最盛期読本の総合的研究』を作成、学界に配布したことで、上記(2)～(5)という成果を修めたのみならず、目的に記したように読本の研究のさらなる深化が促されることになったかと思われる。これで、享和元年（1801）～文化8年（1811）、文政元年（1818）～同13年（1830）に出版された読本の全解題が備わったことになり、この間の文化9年（1812）～文化14年（1817）刊行のもの、また寛政以前刊行のもの、天保以降刊行のものに対する同様の研究を生むことに繋がっていくことと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 26
2. 論文標題 『滑稽臍磨毛』について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 15
2. 論文標題 『道成寺鐘庵記』論（後編） 鎌子について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 121-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 15
2. 論文標題 読本最盛期における読本・合巻の表現様式について 橋本徳瓶・振鷲亭の作に即して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 103-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 52
2. 論文標題 『安達原秋二色樹』翻刻（下）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良大学紀要	6. 最初と最後の頁 176-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 29
2. 論文標題 『播州皿屋舗』と短編合巻	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良大学大学院研究年報	6. 最初と最後の頁 134-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊池庸介	4. 巻 100-11
2. 論文標題 速水春暁斎画作「実録種」絵本読本の種本利用態度：敵討ちを題材とする作品を例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野聡一	4. 巻 100-11
2. 論文標題 読本序文における羅貫中・紫式部応報譚	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天野 聡一	4. 巻 1
2. 論文標題 『雨月物語』序文小考 (小特集：近世文芸の作者の“姿勢(ポーズ)”) : 序文を手掛かりとして)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 國文論叢別冊	6. 最初と最後の頁 3~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/0100483221	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木越俊介	4. 巻 100-11
2. 論文標題 写本小説・松井羅洲作『墨画雪』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 105-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸	4. 巻 15
2. 論文標題 東随舎の写本随筆と『野翁物語』 附、馬琴戯作との類似	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 65-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸	4. 巻 99
2. 論文標題 楽亭西馬作『岸柳四魔談』と馬琴草双紙	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社国文学	6. 最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸	4. 巻 100-11
2. 論文標題 『俊寛僧都嶋物語』試論 引用・考証・附会	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 91-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 25
2. 論文標題 『[伊勢/日向] 寄生木草紙』論 「伊勢や日向の物語」を使用した読本	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 31-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 14
2. 論文標題 『道成寺鐘魔記』論 (前編) 晴若と『梅若権現縁起』の松若	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 53-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 14
2. 論文標題 振鷲亭読本における長編構成の方法	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 51
2. 論文標題 『安達原秋二色樹』翻刻 (上)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良大学紀要	6. 最初と最後の頁 169-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 28
2. 論文標題 京伝・馬琴・一九と『糸桜本朝育』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良大学大学院研究年報	6. 最初と最後の頁 174-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大屋多詠子	4. 巻 14
2. 論文標題 『八犬伝』と九尾狐譚 『動化白狐通』 『絵本ノ増補 玉藻前囁袂』との関連を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 73-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸	4. 巻 98
2. 論文標題 東随舎の写本随筆『続思出草紙』について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社国文学	6. 最初と最後の頁 109-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸・宮田樹・渡邊珠莉	4. 巻 71
2. 論文標題 京伝読本典拠小考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知県立大学説林	6. 最初と最後の頁 23-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸・加藤直志・加藤弓枝	4. 巻 67
2. 論文標題 くずし字による古典教育の試み(7): 和本バンクを活用した出前授業	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/bulsea.67.105	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 24
2. 論文標題 『[姉管根/弟孝太郎] 孝子嫩物語』論 『天明水滸伝』所収「針ヶ崎孝子の仇討ち」の利用	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 10-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 13
2. 論文標題 『[阿初/得兵衛] 窓螢余譚』論 日向で再興する北畠家	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 19-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 13
2. 論文標題 夕霧伊左衛門に関する実録と読本	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 13
2. 論文標題 「血合わせ」再考 京伝・馬琴の諸作品をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 50
2. 論文標題 『敵討身代利名号』 翻刻と解題 (下)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈良大学紀要	6. 最初と最後の頁 180-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤川玲満	4. 巻 135
2. 論文標題 手塚兎月作読本考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 23
2. 論文標題 『[山本真田] 勲功記』論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鯉城往来	6. 最初と最後の頁 30-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤沢毅	4. 巻 12
2. 論文標題 『絵本琴松譚』論 ミステリーの視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 読本研究新集	6. 最初と最後の頁 67-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中則雄	4. 巻 97-11
2. 論文標題 読本における史伝と戯曲 小枝繁『催馬楽奇談』をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 69-8
2. 論文標題 京伝・馬琴の演劇利用 『恋娘昔八丈』を典拠とする作品をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 9-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中尾和昇	4. 巻 49
2. 論文標題 『敵討身代利名号』 翻刻と解題 (上)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈良大学紀要	6. 最初と最後の頁 150-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸	4. 巻 28
2. 論文標題 曲亭馬琴『自撰自集雜稿』諸本小考 「馬琴自筆本」への疑問	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東海近世	6. 最初と最後の頁 21-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅宏幸	4. 巻 69
2. 論文標題 寛政期読本『怪談雨之燈』の研究と翻刻	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立大学説林	6. 最初と最後の頁 27-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 藤沢毅
2. 発表標題 読本『不知火草紙』考
3. 学会等名 尾道市立大学日本文学会大会 (おのみち文学三昧)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 菊池庸介
2. 発表標題 近世俗文学に描かれたキリシタン
3. 学会等名 「キリシタン・反キリシタン文学再考 征服の世紀からの物語」 (「近世「反キリシタン文学」の基礎的研究 「吉利支丹由来記」を起点に」主催)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 木越俊介
2. 発表標題 曲亭馬琴『羈旅漫録』の諸本について 十方庵大浄本を中心に
3. 学会等名 日本近世文学会第142回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三宅宏幸
2. 発表標題 東随舎『統思出草紙』の検証と考察
3. 学会等名 日本近世文学会第143回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菱岡憲司
2. 発表標題 報告「馬琴と小津桂窓（久足）の雅俗観」
3. 学会等名 雅俗の会 シンポジウム「雅俗論のゆくえ」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大屋多詠子
2. 発表標題 馬琴作品の歌舞伎化と上方・江戸
3. 学会等名 青山学院大学日本文学会 国際シンポジウム「歌舞伎の東西 絵と文化」(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊池庸介
2. 発表標題 近世実録におけるキリシタン
3. 学会等名 「美しいキリスト者の検証 「郷土」における宣教イメージの反転 」第4回研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計18件

1. 著者名 藤沢毅、天野聡一、大屋多詠子、菊池庸介、木越俊介、田中則雄、中尾和昇、菱岡憲司、藤川玲満、三宅宏幸	4. 発行年 2024年
2. 出版社 西日本近世小説研究会(非売品)	5. 総ページ数 135
3. 書名 最盛期読本の総合的研究	

1. 著者名 藤沢毅、吉田幸ほか(尾道市立大学近世文学原典講読ゼミ)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 尾道市立大学(非売品)	5. 総ページ数 96
3. 書名 翻刻『杣物語仙家花』(附録・翻刻『敵討女夫似我蜂』)	

1. 著者名 菱岡憲司	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 458
3. 書名 大才子 小津久足 伊勢商人の蔵書・国学・紀行文	

1. 著者名 三宅宏幸、山田和人、加藤直志、加藤弓枝	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 205
3. 書名 未来を切り拓く古典教材 和本・くずし字でこんな授業ができる	

1. 著者名 木越俊介	4. 発行年 2023年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 112
3. 書名 知と奇でめぐる近世地誌 名所図会と諸国奇談	

1. 著者名 木越俊介	4. 発行年 2022年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 512
3. 書名 羈旅漫録 付 蓑笠雨談	

1. 著者名 堀新、井上泰至、黒田智、曾根原理、平野仁也、丸井貴史、菊池庸介	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 388
3. 書名 家康徹底解説 ここまでわかった本当の姿	

1. 著者名 金田真佑香、藤沢毅	4. 発行年 2023年
2. 出版社 尾道市立大学（非売品）	5. 総ページ数 123
3. 書名 翻刻『道成寺鐘魔記』	

1. 著者名 中美咲、藤沢毅	4. 発行年 2023年
2. 出版社 尾道市立大学（非売品）	5. 総ページ数 81
3. 書名 翻刻『[忠孝節話]雲井物語』	

1. 著者名 藤沢毅、津曲恵利	4. 発行年 2022年
2. 出版社 尾道市立大学（非売品）	5. 総ページ数 111
3. 書名 翻刻『窓螢余譚』	

1. 著者名 藤沢毅、黒川紗妃	4. 発行年 2022年
2. 出版社 尾道市立大学（非売品）	5. 総ページ数 72
3. 書名 翻刻『謡曲春栄物語』	

1. 著者名 菊池庸介、ほか計10名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 219
3. 書名 城郭の怪異	

1. 著者名 三宅宏幸、ほか計10名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 219
3. 書名 城郭の怪異	

1. 著者名 三宅宏幸	4. 発行年 2022年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 490
3. 書名 馬琴研究 読本の生成と周縁	

1. 著者名 藤沢毅、有村惟代、三好花純	4. 発行年 2021年
2. 出版社 尾道市立大学（非売品）	5. 総ページ数 83
3. 書名 翻刻『敵討猫魔屋敷』『飾磨褐布染』	

1. 著者名 菊池庸介、久保朝孝、大橋崇行、猪俣ときわ、ほか全55名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武威野書院	5. 総ページ数 720
3. 書名 源氏物語を開く 専門を異にする国文学研究者による論考54編	

1. 著者名 大屋多詠子、朝里樹、ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 376
3. 書名 玉藻前アンソロジー 殺之巻	

1. 著者名 木越俊介、ロバート・キャンベル、品田悦一、岡田貴憲、ほか全15名	4. 発行年 2021年
2. 出版社 角川書店	5. 総ページ数 336
3. 書名 日本古典と感染症	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 則雄 (Tanaka Norio) (00252891)	島根大学・学術研究院人文社会科学系・教授 (15201)	
研究分担者	中尾 和昇 (Nakao Kazunori) (00743741)	奈良大学・文学部・准教授 (34603)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菱岡 憲司 (Hishioka Kenji) (10548720)	山口県立大学・国際文化学部・准教授 (25502)	
研究分担者	藤川 玲満 (Fujikawa Reman) (20509674)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授 (12611)	
研究分担者	菊池 庸介 (Kikuchi Yousuke) (30515838)	福岡教育大学・教育学部・教授 (17101)	
研究分担者	大屋 多詠子 (Ooya Taeko) (50451779)	青山学院大学・文学部・教授 (32601)	
研究分担者	天野 聡一 (Amano Souichi) (50596418)	九州産業大学・国際文化学部・教授 (37102)	
研究分担者	木越 俊介 (Kigoshi Shunsuke) (80360056)	国文学研究資料館・研究部・教授 (62608)	
研究分担者	三宅 宏幸 (Miyake Hiroyuki) (90636086)	愛知県立大学・日本文化学部・准教授 (23901)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------